

第34回

うつのみやこども賞だより

平成29年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『マイナス・ヒーロー』

落合由佳／著（講談社）

～読んだ本の感想より～

- 羽野のシルバーヒーローからゴールドヒーローになるまでの成長に感動した。
- 羽野の予想のつかない人間性が全面にでておもしろかったです。
- 友達の大切さや、きらわれていると思っていた兄のやさしさを知り、成長していく主人公がおもしろかった。
- さいごは勝ててすっきりしました。みんな助け合ってすごいなあと思いました。
- ぶかつとは、なにかを知りたい人にもぴったりの1さつだと思う。ヒーローとは、どんな人なのかもした。
- なやみ、ぶつかったりしながらも羽野海を優勝させるためにがんばる凧人はすごいなあ、と思った。
- とても勇気をもらえる本で、あしたもがんばろうと思える本でした。



『こんとんじいちゃんの裏庭』

村上しいこ／著（小学館）

- 法律などはよくわからないしデッサンなどもしたこともないからわからないけど主人公の勇気はすごいと思う。
- 大人の嘘を暴くために動き出していく悠君がカッコヨかった！！
- 主人公が、じいちゃんの事故をきっかけに友情や、大人の事情を知って、一つまた一つと成長し変わっていく姿がおもしろい。
- 大人の悪をあばいていくそうかいかんがあっっておもしろい。
- 主人公がなぞをときあかしていくときさまざまな人に出会って成長していくところが感動的でした。
- 認知症の表現や悠が乱暴になったりするシーンはドキッとしてしまったが、考えさせられる本だった。

『涙倉の夢』

柏葉幸子／著（講談社）

- 人と動物、人里と山の関わり方や環境もんだいなどはなしでおもしろい。
- ファンタジックな話で、かんだうした。
- お母さんが涙倉を買ったことから始まってミステリーのようにつながっているのがおもしろいし、読んで気持ちよかったです。
- 何回もタイムスリップしていて、その時と現在がつながっていておもしろい。
- 涙倉に昔と今をつなぐトンネルみたいなものがあるのだなと思いました。

『わたしの苦手なあの子』

朝比奈蓉子／著（ポプラ社）

- ミヒロもリサも、自分ではあきらめてしまいそうなことを成しとげてすごいと思った。
- ちょっとせつないけど、リサとみひろの友情が分かる本でした。
- リサみたいな子がいたらその秘密のこを受けとめてあげたい。
- 二人の観点から気持ちがこうさくするところにドキドキしました。
- この中の登場人物はフィクションだけれども、このような経験をした人もいると思う。自分の表現力ではたりないくらい深い本だった。
- リサとミヒロが仲良くなれてよかった。

平成29年12月3日

うつのみやとしょかん
Utsunomiya city library